

審査講評



こまつまちなみ景観賞も2年目を迎え、市民のまちなみ景観に対する評価の目も徐々に定まってきたように思えます。昨年に比べ、応募作品にも粒のそろったものが増え、充実してきたことを感じました。駅周辺整備も具体的に稼働し始めて、まちづくりに対する人々の関心もより身近になりつつあることも、大きな要因と推測されます。

今年は前年を上回る60数点の応募作品があり、書類審査を経て、17点について現地審査を行い、最終的に5点を入賞作品といたしました。今回の特徴としては、修景・再生に優れたものが多くあって、先人が築いてきた歴史的な景観資源に対する市民の強い愛着に対し、認識を新たにいたしました。古川べりなど街中の屋外空間を効果的に修景したものや、まちなみに配慮した一般住宅の応募も多くあり、都市空間の充実と景観形成への一層の関心の高まりを感じることができました。

昨年、今年と、この景観賞選出の機会に触れ、小松のまちづくりとまちなみ景観づくりに対する歩みが始まったことを実感しているところです。こうした着実な歩みが継続され、やがて固有性と魅力にあふれた小松のまちなみが形成されていくことを願っています。

こまつまちなみ景観賞 選考委員長

森 俊 偉

第2回（平成12年度）こまつまちなみ景観賞受賞物件

① 安宅郵便局

小松市安宅町ワ103番地1

施 主 南 知子

設 計 (有)ホクユウ建築事務所

施 工 (株)ダイイチ

軒を連ねた安宅の街並みにピッタリのスケール感を持ち、また開放感のある造りによって街中ににぎわいのある空間を生み出しています。



② 鈴木 邸

小松市中町8番地

施 主 鈴木 一雄

施 工 (有)山本製材

伝統的な木造家屋の建築様式を尊重しながらさりげなく修繕を施し、小松の歴史的な街並み景観の継承に寄与しています。

